

平成 28 年度第 1 回仙台市食育推進会議 議事録

開催日時	平成 28 年 7 月 11 日 (月) 15 時 00 分～17 時 00 分
開催場所	仙台市役所本庁舎 2 階 第 1 委員会室
出席者	
委員 (順不同・ 敬称略)	相澤かず子 蘆澤義章 小島芳 亀山季代子 熊谷和裕 (会長職務代理者) 齋藤浩美 白川愛子 菅原哲平 高澤まき子 (会長) 中野俊昭 早坂椒子 平間正浩 南文子 渡辺淳子 佐々木洋 福田洋之 石川浩史 (佐藤農林部長代理出席) 大越裕光 (清 水教育局総務企画部参事兼健康教育課長代理出席) (欠席委員：青沼清一 鈴木直子)
事務局	市民局 消費生活センター所長 健康福祉局 次長 保健衛生部長 生活衛生課長 健康政策課長 子供未来局 子育て支援課長 運営支援課長 経済局 農林部長 (委員代理) 農食ビジネス推進室長 (代理出席) 中央卸売市場業務課長 若林区保健福祉センター 衛生課長 太白区保健福祉センター 家庭健康課健康増進係長 (代理出席) 教育局 総務企画部参事兼健康教育課長 (委員代理) 生涯学習課長 (欠席)
次第	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 職員紹介 5 議事

	<p>(1) 会長及び会長職務代理者の選任について</p> <p>(2) 仙台市食育推進計画の概要について</p> <p>(3) 平成 27 年度食育推進事業実施状況について</p> <p>(4) 平成 28 年度食育推進事業計画について</p> <p>(5) 仙台市食育推進計画第 2 期 中間評価に向けて</p> <p>(6) その他</p> <p>6 閉会</p>
--	---

発言者等	
<開会> 進行	<p>皆さん、お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから平成 28 年度第 1 回仙台市食育推進会議を開催いたします。はじめに本会議の開催にあたりまして、佐々木健康福祉局長よりごあいさつ申し上げます。</p>
<挨拶> 健康福祉局長	<p>ただいま紹介いただきました健康福祉局長の佐々木と申します。このたびは仙台市食育推進会議の委員就任にご快諾をいただきまして、委員の皆様方、本当にありがとうございます。また本日はお忙しい中、この推進会議にご参加いただきまして、ありがたく存じております。そして日ごろより健康福祉行政はもとより、市政各般にわたりまして、皆様方のご理解ご協力を賜っておりますことをこの場をお借りしまして、あつく御礼申し上げます。</p> <p>さてこの食育推進会議でございますが、平成 17 年に国の食育基本法が制定されたことを受けまして、本市におきましても市民の食育推進を柱に設けられたものでございます。これまでの間、第 1 期第 2 期の食育推進計画を策定するとともに、委員の皆様、あるいはその所属しております団体様とも連携いたしまして、単にこの場で議論するだけではなく、地域、あるいはそれぞれの団体の取組の中で、食育を推進していただいております。</p> <p>平成 23 年 3 月に策定されました現行の食育推進計画では、食を通じた健康づくりの実践、地域の食文化の継承、地産地消の推進、食品を選ぶ確かな目の形成という 4 つの柱を掲げまして、これまで取り組んできたところでございます。</p> <p>国におきましては、この 3 月に第 3 次食育推進基本計画が決定されまして、今後、各団体あるいは地方公共団体もそれにのっとった形で、食育の推進が図られるものと思っておりますが、本市におきましては 23 年 3 月に策定された食育推進計画が中間年の見直しの時期を迎えておりますことから、この推進会議におきまして、ご意見を賜りながら進めて</p>

	<p>まいりたいと存じております。</p> <p>それぞれ食育を推進しております委員の皆様方、あるいは団体の皆様方とともに仙台市の食育を推進してまいりたいと存じております。この推進会議におきましても、委員の皆様方の積極的なご発言、あるいはさまざまな分野でのご活躍をお願いいたしまして、簡単ではございますが、冒頭のあいさつとさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。</p>
進行	<p>では局長、委員席へお願いいたします。本日の会議は本年6月9日に委員任期が改まりましてから初めての開催となります。委嘱状につきましては、机上配布とさせていただいておりますので、ご確認ください。</p> <p>ではここで今期の委員としてご就任いただきました皆様をご紹介申し上げます。恐縮ではございますが、委員名簿順にご紹介させていただきたいと存じます。まず相澤かず子様でございます。</p>
相澤委員	よろしく願いいたします。
進行	蘆澤義章様でございます。
蘆澤委員	よろしくお願ひします。
進行	小島芳様でございます。
小島委員	よろしく願いいたします。
進行	亀山季代子様でございます。
亀山委員	よろしくお願ひします。
進行	熊谷和裕様でございます。
熊谷委員	よろしく願いいたします。
進行	齋藤浩美様でございます。
齋藤委員	よろしく願いいたします。
進行	白川愛子様でございます。
白川委員	よろしく願いいたします。
進行	菅原哲平様でございます。
菅原委員	よろしくお願ひします。
進行	高澤まき子様でございます。
高澤委員	よろしく願いいたします。
進行	中野俊昭様でございます。
中野委員	よろしくお願ひします。
進行	早坂淑子様でございます。
早坂委員	よろしくお願ひします。
進行	平間正浩様でございます。

平間委員	よろしく申し上げます。
進行	南文子様でございます。
南委員	南でございます。よろしく申し上げます。
進行	渡辺淳子様でございます。
渡辺委員	よろしく申し上げます。
進行	また本日欠席でございますが、青沼清一様、鈴木直子様にもご就任いただいております。合わせて本市職員の4名が委員に任命されております。佐々木健康福祉局長でございます。
健康福祉局長	よろしく申し上げます。
進行	福田子供未来局長でございます。
子供未来局長	よろしく申し上げます。
進行	経済局長石川でございますが、本日は佐藤農林部長代理出席でございます。
経済局長（佐藤農林部長代理出席）	よろしく申し上げます。
進行	教育長大越でございますが、本日は清水教育局総務企画部参事兼健康教育課長代理出席でございます。
教育長（清水教育局総務企画部参事兼健康教育課長代理出席）	どうぞよろしく申し上げます。
進行	続きまして本日出席しております市職員をご紹介します。岡崎健康福祉局次長でございます。
健康福祉局次長	岡崎です。どうぞよろしく申し上げます。
進行	石澤保健衛生部長でございます。
保健衛生部長	石澤です。どうぞよろしく申し上げます。
進行	また関係課職員が出席しております。お手元の市職員出席者名簿をご覧ください。どうぞよろしく申し上げます。続きまして本日の会議の成立についてお知らせいたします。現在18名の委員の皆様に参加いただいております。過半数の出席となっております。仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、本会議は成立しております。 では続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。お手元に会議資料一覧があるかと思います。まず資料1から資料4までの4部と、

	<p>参考資料の1部を委員の皆様事前に送っておりますが、お持ちでない方いらっしゃらないでしょうか。また本日の配布資料といたしまして、仙台市消費生活基本計画とワケアッ! 仙台、エコレシピ帳をお手元にお配りしております。ご覧いただければと思います。資料よろしいでしょうか。</p> <p>それでは議事に入りたいと思います。本日は委員任期が改まりましてから初めての会議となりますので、まず会長を選任いただきたいと存じます。仙台市食育推進会議条例第5条の規定により、会長は委員の互選により定めることとなっております。皆様からご発言いただけますでしょうか。はい、相澤委員。</p>
相澤委員	<p>仙台市食生活改善推進委員会の理事の相澤でございます。ただいまの選任につきまして、仙台白百合女子大学准教授の高澤まき子先生を推薦申し上げたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>皆様、相澤委員から高澤委員をご推薦いただきましたが、いかがでしょうか。(委員より異議なしの声・拍手多数あり) ありがとうございます。高澤委員、いかがでしょうか。</p>
高澤委員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございます。それでは恐れ入りますが、会長席にお移りいただければと思います。でははじめに高澤会長からごあいさついただければと存じます。</p>
高澤会長	<p>皆さん、こんにちは。改めまして仙台白百合女子大学の高澤と申します。このたびは会長をご推薦賜りまして、非常に恐れ多いところでございます。食というのはやはり命の源でございます。知育・徳育・体育の礎ともなるべき分野で、大変重要な部分でありますので、この会議は非常に重要なところかなと思っております。各分野の代表の皆様が集まれる会のまとめ役といたしまして、平成30年の6月まで務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。これからの議事進行につきましては会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
高澤会長	<p>それではよろしくお願いいたします。次に会長職務代理者の指名でございます。仙台市食育推進会議条例第5条第3項の規定によりまして、会長である私が職務代理者を指名することになっております。私といたしまして、前の任期に続きまして熊谷委員にお願いしたいと思いますが、熊谷委員、お願いできますでしょうか。そして皆様、いかがでしょうか。(拍手多数あり) よろしくよろしくお願いいたします。</p>
熊谷委員	<p>よろしくお願いいたします。</p>

高澤会長	<p>それではこちらの職務代理者の席にご移動お願いいたします。続きまして議事録署名人の指名でございます。今回の議事録署名につきましては、仙台市保育所連合会の役員でございます早坂委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次に移りたいと思います。議事の2、仙台市食育推進計画の概要についてでございます。事務局のほうからご説明をお願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>健康政策課の小林と申します。私のほうから仙台市食育推進計画の概要についてご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。資料1に計画の概要版を用意しております。こちらの資料を開いていただきますと、計画策定の経緯と趣旨というページがございます。</p> <p>仙台市では平成19年3月に仙台市食育推進計画を策定しまして、市民や関係団体の皆様と連携しながら、食育推進に取り組んでまいりました。現在の計画は第2期となっております。平成23年度から平成34年度までの12カ年を計画期間としまして、中間年、来年平成29年度でございますが、中間評価と計画の見直しを行う予定でございます。</p> <p>仙台市の計画推進の基本でございますが、食育は市民一人一人が取り組むということが基本ではございますが、最近の食を取り巻く社会状況の変化や体験不足等々によりまして、家庭のみではその機能を果たすことが難しくなっているところでございます。</p> <p>そういった環境の中で市民とともに、地域・学校・職場など暮らしの場で、食に関わるさまざまな関係機関が協働し、3つの視点で食育を推進していきたいと思っているところでございます。こちらの図にございますように、視点ⅠからⅢの3つの視点で推進していくということで、市民だけではなく教育関係や保育関係、食品関連事業者、農林水産業の生産関係者や保健医療関係者、行政、そういった方々と一緒に食育を進めていき、仙台市食育推進会議の中で、関係団体の取り組みにつきまして、情報の共有や、課題についての協議をしながら仙台市民の食育の推進を図っているところでございます。</p> <p>もう1枚めくっていただきますと左側に「食べる力をみんなでアップ!」というこの食育計画の基本目標を掲げております。「食べる力」とは、ここでは食べ物を選ぶ力、食事を準備する力、組み合わせを考えて食べる力、素材本来の味がわかる力など、生きるための基本となる力を指しております。これらの力をみんなでアップするために、それぞれが取り組みを進めております。</p> <p>具体的には1から4の推進の柱を掲げておりまして、隣のページに具</p>

	<p>体的な取り組みということで、この柱を踏まえた、具体的な取り組みの方向性を示しております。</p> <p>毎年、この食育推進会議でも、推進の柱と具体的な取り組みの方向性に基づいた、皆様の活動状況、実績などの共有や、意見交換をさせていただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。まずは基本目標の食べる力をみんなでアップ！という大きなテーマがございまして、この目標を推進するための4つの柱ということで、食を通じた健康づくり。2つ目に地域の食文化を伝えよう。3つ目に地産地消を進める。4つ目に食品を選ぶ確かな目を持つと、この4つの柱をもって、今度は具体的な取り組みが細かく示され、さらにはライフステージごとの取り組みの目標と、具体的に示されたパンフレットになっております。</p> <p>事務局から、仙台市食育推進計画の概要につきまして、ご説明がございましたが、この件に関しまして、何かご質問ございませんでしょうか。ないようでございますので、それでは次の議事に移りたいと思ひます。</p> <p>議事の3になります。平成27年度食育推進事業実施状況についてでございます。資料2をお出しくたさい。</p> <p>平成27年度食育推進事業取り組み事例集でございまして、皆様にご提供いただきました昨年度の取り組み事例を、事務局のほうでまとめていただいたものでございます。平成27年度の事業実施状況につきまして、先ほどご説明ありました4つの推進の柱ごとに事例集も活用しながら、いくつかの取り組みの紹介をしていただきたいと思ひます。</p> <p>その後、皆様からご感想、あるいはほかの取り組みなどについてご発言をいただきたいと思ひます。皆様にご紹介いただきたいと思うところがございますが、時間も限られているところでございますので、まずこの事例集の1ページから4ページの事例をご提供いただきました熊谷委員にご紹介をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p>
熊谷委員	<p>向山小学校の校長をしております熊谷でございます。仙台市の小学校校長会の代表ということで、この場に参加させていただいております。</p> <p>昨年度の事例ということで1ページから4ページまで、小学校での実践の様子を紹介させていただきました。1ページ2ページは本校の取り組みですが、本校だけではなくて、仙台市の教育委員会や、地場産品を提供して下さった農協さんとのコラボレーション的な活動の紹介でございます。</p> <p>毎年1月に学校給食週間というのがございまして、それぞれの小学校</p>

	<p>で子どもたちと様々な企画を考えて、委員会活動であったりしながら、学校ごとに計画を立てて取り組んでおります。それと同時期に学校給食フェアということで、仙台市の地場産品の野菜、今回はちぢみ雪菜ですが、それを取り入れた献立を提供しまして、さらに同じ日に市役所の食堂でも給食を味わっていただくということで、市民の皆さんに60食限定で、このドライカレーとちぢみ雪菜入りみそワタンスープを中心とした食事を提供させていただきました。</p> <p>裏側がそのときのおたよりでございまして、このとき出したレシピなども入れながら、資料として向山小学校の給食を紹介させていただいたところでございます。</p> <p>3ページ4ページに関しましては、仙台市立川平小学校の取り組みということで、川平小学校の給食時間での栄養教諭による指導の様子、食事マナーの指導や、食器の正しい配置など、身に着けさせる基本的な内容の指導の紹介と、授業での栽培・収穫・調理を含めた、体験的な学習のこと、それから家庭への啓発として、おたよりづくりに力を入れているというようなことをまとめた資料でございます。</p> <p>4ページにはそのときの写真なども掲載しておりますが、献立の工夫としましては、地下鉄の東西線が開業したということで、それにちなんだ献立を提供したところ、新聞にも取り上げられて、話題になりました。以上、簡単ですが、ご紹介申し上げます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。小学生でもかなり野菜のことをよく知っているようですね。うちの大学は栄養士、管理栄養士を養成している大学ですが、今3年生が小学校や病院に実習に行っている期間となっております。</p> <p>この間、小学校に実習に行ってきた学生が、子供たちに栄養指導したところ、子供たちが質問にどんどん回答してくれると話しておりました。小学校で様々な食育の取り組みを行うことによって、子どもたちの理解が深まっているということが、今のことでよくわかりました。ありがとうございました。</p> <p>それではもう1団体ということで、私のほうから僭越ながら、ご紹介させていただきたいと思います。19ページを開いてください。昨年の食育の取り組みについて大きく4つ挙げさせていただいております。</p> <p>まず19ページはゼミの活動で、企業とバッティングいたしまして、お弁当の献立について共同開発事業をさせていただきました。目的としては、復興のために地元の食材を使おうということで、秋の献立を考案いたしました。</p>

学生の中にも旬を知らない人が多いということで、今回は、旬についての学習、企業とのやり取りの中で経営のあり方、商品になるまでのプロセス、チラシでの宣伝の仕方、表示のつけ方などについても、学生たちが十分に学習できたのではないかと思います。

内容といたしましては、まずは地元の食材を使う。そしてできるだけ添加物を使わない方向で、献立を作成し、企業にもつくっていただきました。というのは、以前学生たちに 500 円程度のお弁当を購入させまして、その原材料にどんなものが入っているのか、添加物がどれくらい入っているのかということ进行调查させました。

添加物というのは、表示しなくてもいいものもあります。ですからそれ以外にも実は添加物が入っているということは、重々承知しておりますが、表示上は少なくても 8 種類、多くても 23 種類、平均すると大体 13 種類の添加物が入っているということでした。それを調査したことによって、学生たちもこんなに添加物が入っていたのだ、ということに気付いたようです。

以前コンビニ弁当を毎日買って食べていたら体調がおかしくなったという学生がいました。そういったところから、やっぱり自然なもので、体に優しいものを、一般の人たちに提供しようということも 1 つの目標でした。

次のページ、これは学内で実施した食育講座でございます。どうしても一人暮らしの学生たちは、不規則になりがちですし、何をつくったらいいかわからないという声も聞かれます。まず食生活の基本を知ろうということで食事バランスガイドの紹介をしました。

また、学生たちはご飯が余ると冷凍して次に使うということがほとんどです。そこで、ご飯を美味しくアレンジする方法も紹介しながら、実習をしました。

目的の 3 つ目に「天然素材からだしをとり、その味を知る」とありますが、やはり日本料理は出汁が基本になります。現在は本だしなどの化学調味料を使うのが主流となっており、本当の出汁の味がわからない人が増えています。

ですので、このときは煮干しからだしをとり、その味を味わってもらおうということで、日常よく食べられているなめこ汁をつくりました。「こんなにおいしいんですね」という学生たちも多く、本当の味を知ってもらえたのではないかと思います。

目的の 4 つ目に非常時の備えのことがありますが、ちょうど今年の 5 月というと、蔵王の火山性微動のニュースが頻繁にありました。もちろ

ん今年には熊本の大地震も起こりましたし、本当に日本は全体的に揺れているなというところがあります。

やはり、非常時の備えについても意識を持つことが必要ということで、非常時の備えとして、アルファ米の紹介をしたところ、初めてアルファ米のことを知ったという学生もおりました。

アルファ米というと水、あるいはお湯を加えるだけで、簡単にご飯になるというものですが、食べるとぼそぼそとして、そうそうおいしいものではなく、炊き立てのご飯と比べれば、雲泥の差があります。

そのアルファ米をおいしく食べられる工夫として、ビニール袋を使った節水調理を紹介させていただきました。非常に内容盛りだくさんの講座でございました。

21 ページの事業は味の素株式会社とのコラボ、共同事業になります。味の素株式会社は「どこでもキッチン」という移動式の調理台を持っていて、岩手・宮城・福島の仮設に住んでいらっしゃる方々対象の料理教室を行っております。そこに白百合女子大も健康支援事業として加わり、昨年度は 20 回ほど料理教室をさせていただきました。教員 6・7 人で担当し、それぞれの仮設地域の方々対象の料理教室をさせていただきました。

ここでその中の 2 つの例を示させていただいております。この事業をさせていただいて、私なりに感じましたことは、震災被害に遭った方々にとっては、食べることは確かに栄養補給ではあるんですが、やはり心の安定を図るという上で大切な行為であるということを感じさせていただきました。楽しくおいしく食べるということが、何よりも元気の源ではなかったかなと感じております。

復興住宅に全員が移ったというわけではなく、仮設住宅に住んでいる方もまだいらっしゃるということで、この料理教室は今年度も継続しております。

最後に 23 ページでございます。これはみやぎ県民大学講座という一般の方々対象の講座でございます。健康増進をテーマとした実践的な減塩法で、私は第 3 回目を担当いたしました。確かに塩というのは必要なものではございますが、必要以上に摂り続けていけば、やがて高血圧になるということは、重々承知のことと思います。

減塩の工夫としては、酸味をかきせる、出汁をかきせる、香りのある食材を使う、香辛料をうまく使うということなどがありますが、実際にどのくらい塩分を減らすことができたか、を 24 ページの下の方に示しております。

	<p>もともとの献立の塩分量は、結構私も下げたほうですが、2.9 グラムでございました。それをさらに出汁をきかせ、食酢を使う、といった工夫で2.9 グラムから0.4 グラム差し引きまして、2.5 グラムまで減らすことができたという内容でございました。長くなりました。以上でございます。</p> <p>そのほか、参考になるような取り組みがございましたら、ぜひ委員の皆様からご紹介いただければと思います。何かございますでしょうか。相澤委員、いかがでございますか。</p>
相澤委員	<p>私たちの食改は、以前から塩分のことは気になってずっと取り組んでまいりました。昔からの実дукさんの味噌汁を心がけてまいりました。この前の食改委員の勉強会で、味噌汁の塩分を測ってみましたら、自分では0.6%くらいと思っていましたが、0.7%でした。でも0.8%以下だったので良かったとは思っております。</p> <p>高血圧をなくすように、秋保では昭和53年から食生活改善推進委員会として、県の事業と一緒に活動してまいりました。今では皆さん塩分については、本当に敏感に注意するようになっておりますので、私たちも安心しているところでございます。塩分を減らす工夫として味噌汁は実дукさんということで、PRしております。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。いろんなところで減塩活動もされていらっしゃると思います。それから昨年度、保育所連合会で幼児の食生活実態調査を実施しているとご報告いただいたかと思います。調査結果などご紹介いただければと思いますが、早坂委員、いかがでしょうか。</p>
早坂委員	<p>幼児の家庭における食生活実態調査の結果について、簡単にご説明いたします。まず1番目、子どもの生活習慣について、5年前と比較しますと、就寝時間が遅くなっているということでございました。それから朝食の摂取については、毎日食べる児童が95%で、5年前とほぼ同様でした。また家族と食事をともにする共食については、朝食を子どもだけで食べる割合が20%と、5年前より増加しておりました。</p> <p>それから2番目、むし歯のある児童は全体の16%になり、その中には4本以上のむし歯のある児童が約20%と、一人で多くのむし歯を有する傾向が見られました。むし歯のある児童は間食の回数が多かったり、ほしがるときに食べさせたりという状況が多く見られました。また甘味の多い飲料やお菓子を食べる機会が多いことがわかりました。</p> <p>3番目として、食品の種類ごとの摂取状況では、魚の摂取頻度が低かったこと、毎日野菜を食べている割合が77%に留まり、摂取量の不足が予想できました。以上の結果を踏まえて、今年度は実際の家庭の食事調</p>

	<p>査との関連を研究していく予定となっております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。家庭の食がどのような状況になっているかということが重要だと思います。そのほかご感想、ご質問ございますでしょうか。ありがとうございました。それでは先ほどの取り組み事例を拝見いたしますと、皆様それぞれの特徴を生かした活動が展開されているなど感じました。</p> <p>特に目次を見ますと、推進の柱の中の①が最も多いということが見受けられました。それぞれの団体が仙台市食育推進計画の推進の柱を意識しながら、食育を進めていくことで、幅広く、よりよい食育推進が図られるのではないかと思います。</p> <p>それでは続きまして議事の4に移りたいと思います。平成28年度食育推進事業計画についてでございます。はじめに皆様から平成28年度の新規事業、拡充事業などを中心にご紹介をいただきまして、皆様とともに共有したいと思います。</p> <p>それでは資料3をお出しください。資料3に基づきまして、ご発言はお1人2分程度を目安に、また資料のページ番号も合わせてお話しいただきたいと思います。はじめに宮城県栄養士会の南委員、お願いいたします。</p>
南委員	<p>宮城県栄養士会の南と申します。今年度、実は私どもの栄養士会の理事が全員交代しております。新旧交代ということで事業計画の正確なところが出ておりませんが、県民向けの調理実習ということで、今のところ年間3回予定しております。</p> <p>9月ごろに第1回目を開催する予定でございます。アエルの調理室等を使いまして、減塩を主体とした調理実習等を県民の方向けの公開講座として行っております。</p> <p>あと前年度の紹介にもございますように、11月には県民の皆様対象に、いい日いい汗健康まつりを実施します。県の健康推進課とのタイアップ事業で県民の健康に関するサポートを目的に、多職種連携を基本としております。医師会の先生方、歯科医師会の先生方、検査技師、薬剤師など、さまざまな職種の方々のご協力を得まして、当日その会場におきまして、相談会を開催いたしております。もちろん私ども栄養士の栄養相談というコーナーもつくっております。</p> <p>またそのときに一般の県民の方向けの健康講座についても内容に関しましては検討中ではございますけれども、準備中でございます。一応、例年どおりの流れの中で進めております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。それでは子どもたちと保護者への取り組み</p>

	<p>から、熊谷委員、よろしくお願いいいたします。</p>
熊谷委員	<p>それでは資料の5ページをご覧ください。食を通じた健康づくりの実践ということで、新たな事業は特別ございませんが、これまでの事業を継続して、各学校で工夫して取り組んでいくという形を取っております。</p> <p>食に関する指導の全体計画、それから各学年における食に関する指導の年間指導計画を各学校でつくっております。その基になっているのが、仙台市の平成25年度に改定された、食に関する指導の手引きでございます。それを参考に各校で計画を立てて取り組んでいます。</p> <p>毎月、19日の食育の日、6月の食育月間にはそれぞれ工夫した取り組みを展開しています。給食の場合ですと、残食というのがどうしても課題になって、残食を減らす取り組み、食を大切に作る取り組みということで、その実践的な研究をそれぞれ仙台市を7つの地区に分けて、地区ごとにテーマを設けて、研究をして、2月に発表するというような研究発表の形を取って、食育の実践研究も行っています。</p> <p>それから望ましい生活習慣を形成するための呼びかけということで、保護者との懇談会や、給食の試食会、PTA行事、親子食育講座などを活用して、望ましい食習慣の形成、食を通じたコミュニケーションの促進などを図っているところでございます。</p> <p>それから31ページになります。31ページの一番下のところには、地域の食文化を伝えあおうということで、食文化の継承ということも、学校教育の中で大きな目標の1つでございます。</p> <p>学校給食を生きた教材として活用しながら食育を推進しております。例えば、7月は七夕というように行事・祭事にちなんだ献立を提供することで、家庭への啓発も兼ねて地域の食文化の継承、伝統に対する理解を深め、食への関心を高める、日本の良き伝統を伝えるといったところにも力点を置いて取り組んでいるところでございます。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。非常に幅広い内容の取り組みだと思います。続きまして、私立幼稚園連合会の小島委員、お願いいいたします。</p>
小島委員	<p>仙台私立幼稚園連合会の役員をしております小島と申します。実は私どもは昨年度から幼保連携型認定こども園になりまして、幼稚園ではありませんが、連合会には参加しておりますので、幼稚園連合会ということでこのたびこちらに参りました。</p> <p>今年役員の任期が変わって引き継ぎまして初めてなんですけど、実は5年ぐらい前にこちらの会議が始まった年に1回委員をさせていただいておりますので、そのときの経験を踏まえながらつとめたいと思います。</p> <p>私立幼稚園連合会では、私立の幼稚園がそれぞれ行っている取り組み</p>

	<p>を私が所属しております、仙台私立幼稚園連合会の研修部で、毎年取りまとめをしております。各幼稚園それぞれ独自性を持ってやっておりますので、その中で取組を進めていただくように呼びかけながら、またこちらもいろいろな園でやられている食育の取り組みについて、お聞きしたりしながら、私立幼稚園連合会として取りまとめていくという形を取っております。それは今年も継続してまいります。</p> <p>私どもの園で、昨年度からの継続事業のほかに、学童農園事業ということで、仙台市から田んぼをお借りして、お米をつくる活動を5年ぐらいやっております。</p> <p>今回、この会議の委員になったということで、学童農園の事業を実施している園はいくつあるか伺いましたら、田んぼを借りている園が2園、私どものほかにもう1園。それから畑が全部で12園あるということでした。私どもの園では、必ず全部手で苗を植えて、手刈りして、草取りも全部自分たちで行い、その上でできたお米を天日干しして、外で釜で炊いて、子どもたちと一緒に食べるという活動をしております。</p> <p>大変なときにはもう一粒一粒皮をむいて食べるといったこともやっています。ほかの園にもどんなふうにも子どもたちの食の体験に結びつけているのかといったことも、伺っていきたくて考えております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。栽培から子どもたちに手がけさせて、自然の恵みをいただくということは大事なことだと思います。ありがとうございました。続きまして保育所連合会の早坂委員、お願いいたします。</p>
早坂委員	<p>平成28年度食育推進事業について、保育所連合会の主な取り組みについて、資料の25ページをご覧ください。1、保育所連合会栄養士研修会では、毎年栄養士の資質向上のための研修会を実施しております。今年度は保育所における食育のねらいと実践というテーマで講話を受けます。子どもの発達や年齢ごとの食育のねらい、保育との連携などについて学び、食育計画の見直しを図り、保育所での食育を推進します。</p> <p>保育所連合会研究委員会では、毎年テーマを設けて、研究発表を実施し、成果を上げております。平成28年度は昨年度の研究を引き続き、検討してまいります。平成27年度に実施した幼児の家庭での食生活、実態調査の結果から、課題とされた生活習慣と食事内容の関連、肥満やむし歯の状況と食事との関連性などについて、さらに検討してまいります。</p> <p>また家庭での食事内容調査の結果から、実際に摂取した食品の種類や頻度について、平成27年厚生労働省乳幼児栄養調査の結果と比較して、課題について研究を実施してまいります。合わせて家庭での健康的な食</p>

	<p>習慣の改善につながる情報の提供を行います。</p> <p>2の事業、保育所連合会給食担当者研修会についてです。調理実習は昨年度講話研修に参加した施設が対象となりますので、内容は昨年度と同様で行います。給食での使用頻度が高い大豆や大豆製品について、おいしく食べるための調理方法や工夫を学んでいくために、子どもが喜ぶ大豆製品を中心とした献立をテーマに、調理実習を実施していくことになっております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。継続的な調査研究と、その結果から取り組みの方向性が、見えて来るかと思えます。ありがとうございました。それでは次にPTA協議会の蘆澤委員、お願いいたします。</p>
蘆澤委員	<p>仙台市PTA協議会副会長の蘆澤です。このたび役員が改正されて、私も今回初めてこの場に出席させていただきました。今までのお話を聞くと、食育とはどういうものなのかなと思ったときに、今の小中学生たち、子どもたちの取り巻く環境というのが、非常に何か食育からかけ離れているような気がしました。</p> <p>というのはやはり今、子どもを育てている親御さんたちが非常に忙しく、出来合いのものを提供する方々が多いのではないかと思います。</p> <p>仙台市PTA協議会の取組は、8ページになります。親子を取り巻くさまざまな場面を捉え、情報発信と支援を充実させるということで、具体的な取り組みとしましては、児童生徒の保護者に向けて、健康的な生活習慣のための情報を発信していくことをテーマにしております。</p> <p>内容としては、親子の料理教室、試食会、栄養士の講話、ミニ菜園での栽培など各学校がそれぞれ行っていることを進めていくということを考えております。</p> <p>また先ほどお話にありました、幼稚園さんも行っております農業体験を小学校でも実施しております。やはりお米を育てて、四季を通して成長していくことを観察し、最後に収穫して食べることを通して、そのサイクルがわかって、それを自分たちの口に入れるということが非常に大事であると思っております。</p> <p>また先ほど会長のお話にアルファ米の話がありましたが、これも各学校での取組を聞きまして、よくおやじの会というのがありまして、その中で学校に泊まろうというイベントを行っているところもあります。</p> <p>子どもたちが学校に泊まるときの食事にカレーライスを作ります。体験といたしまして、アルファ米を用意して、災害時を想定して、電気が使えない場合にはどうやってそのお米を炊くのかを体験できる機会とし</p>

	<p>ています。あとは食器を洗うための、仙台市で、たしか車で食器を洗うような機械があるようなんですが、そういうものも無料で貸していただけるということもあり、そういったものを使いながら、子どもたちになお、喜んでいただきながら学ぶということを取り組んでおりました。</p> <p>楽しみながら、学んでいくことが一番かなと思っております。会長が大学生に教えている、食品添加物などを食べていくと、こうなるんだよということも、小学校中学校のうちから学んでいかせてあげたいという考えもあります。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。食器洗いの車、移動車っていうのがあるんですか。</p>
蘆澤委員	<p>ええ、あるみたいです。</p>
高澤会長	<p>もしわかりましたらまた情報を。</p>
蘆澤委員	<p>ワケル君の何かあるんですよ。</p>
高澤会長	<p>そうですか、また情報いただければと思います。ありがとうございます。それでは地域住民の健康づくりの取り組みから、相澤委員、お願いいたします。</p>
相澤委員	<p>仙台市食生活改善推進員の理事の相澤でございます。食生活改善推進員は宮城地区と秋保地区の2地区で現在活動しております。9ページをご覧ください。毎年同じようですが、宮城地区ではA-1で食育の情報を市民へ広く発信しますということで、食育の日、毎月19日のPRをしています。また、宮城地区まつりに参加して、地元産の野菜でカルシウムたっぷりのお好み焼きの販売をしております。</p> <p>秋保では食生活改善事業、普及事業として野菜を食べようというテーマで、秋保幼稚園の保護者と一緒に調理実習をし、生活改善をするための講習会を開いております。今年は12月に1回予定してございます。</p> <p>それからヘルスマイトの「TUNAGU」パートナーシップということで、これは県の事業になりますが、宮城地区で今年も活動する予定でございます。それから秋保地区では11月に肥満予防講習会として、一般市民を対象に適正体重を維持しましょうということで、体重測定や、食事づくりをする予定でおります。</p> <p>それから食生活改善事業として、今年は7月22日に「良い食生活をすすめるための料理講習会」として、骨とカルシウム、食育についてなどの講話をしながら、調理実習を行います。宮城地区では、親子の食育教室として、児童と親を対象に食育の5つの力ということで、毎年行っております。今年度も大倉地区で活動する予定でございます。</p> <p>10ページをご覧ください。地域の中でさまざまな年代が体験を通して</p>

	<p>健康な食のあり方を学ぶ場をつくりましょうということで、生涯骨太クッキングを秋保地区で行う予定でございます。これは1月に1回予定しております。</p> <p>11月に実施予定の健康のつどいでは、郷土料理や地域の食材を紹介するブースを設置して、試食会を行い、毎年皆さんに好評をいただいております。今年は味噌汁の塩分測定も実施予定で、参加者に味噌汁を持って来るようにPRしながらやってまいりたいと思います。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。減塩のことについても今年度も継続的にされるということですね。ありがとうございます。健康で安全な消費生活についての取り組みから、渡辺委員、お願いいたします。</p>
渡辺委員	<p>宮城生協連で常務理事をしております渡辺と申します。私も初めて、こちらの会議に出席させていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>私からは、生協連の会員でありますみやぎ生協、あいコープ、大学生協の取り組みをご紹介します。</p> <p>13ページをご覧ください。みやぎ生協の取り組みでございます。みやぎ生協では震災以降、食のみやぎ復興ネットワークを結成いたしまして、県内の農業漁業関係者、食品関連産業が一緒になって、県内の素材を使った地元の加工品、それから商品開発を行ってきました。</p> <p>昨年の11月から「古今東北」という新ブランドを立ち上げました。これは東北地方の震災復興、それから地域産業振興を目的としまして、新しく素材、加工品などの開発、販売を行っております。全国プラスそれから世界にも東北の地場産を広げていこうという取り組みでございます。</p> <p>続きまして14ページ、食事づくりなどを体験する場をふやすということで、あいコープの活動報告を紹介したいと思います。子育て世代の調理体験、親子で楽しくつくって食べる体験を応援しようということで、あいコープが「あいぶらんど」という地場産の食材を使った商品開発、こだわりの商品を開発しております。そちらの商品を活用した料理教室を年10回ほど開催しております。子どもと一緒に、親子で地場の素晴らしい食材を、生産者と一緒に調理実習をするという体験でございます。</p> <p>最後に大学生協の取り組みです。16ページをご覧ください。多くの消費者と生産者が交流する機会をつくるということで、大学生協では学生食堂で提供している食材の産地での体験学習を通して、生産者との交流を図っております。</p> <p>今年度は10月1日2日にキャベツの収穫体験を行って、収穫したキャ</p>

	<p>ベツを使用して、調理実習を行う予定です。学生が食材について、どのように育てているのか、また生産者の育てる苦勞などを体験することによって、食の大切さを学ぶ、よい機会かと思ひます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。続きまして環境とくらしネットワークの菅原委員、お願いいたします。</p>
菅原委員	<p>皆様、初めまして。みやぎ・環境とくらしネットワークの菅原と申します。今回初めて参加させていただいております。よろしくお願ひいたします。私どもの団体、環境団体なんですけれども、いろいろなものをテーマにして、環境の側面から取り組んでおります。17 ページをご覧ください。こちらに仙臺農塾の取り組みと、4 Rエコクッキングの取り組みを載せさせていただいております。</p> <p>仙臺農塾は対象が働き盛りの若い世代ということで、皆様の取り組みは子ども対象にされたものが多いかと思うんですが、私どもの団体では働き盛りの若い世代、20、30、40代の方をターゲットにしております。働き盛りの毎日お弁当という方や自分で手づくりできないといった方など食事が疎かになりがちの方を対象にして、仙台のまちなかを会場に毎月連続で講座を開催しております。</p> <p>毎回ごとにテーマを設けて、その分野のプロフェッショナルを講師に招いて、宮城の食や、農漁業の現状を学びながら、参加者同士でも交流していただくという取り組みを行っております。</p> <p>もう1つは4 Rエコクッキングです。今日の配布資料のエコレシピ帳の内容がまさに私どもがやっていることです。ここに書いてあるとおりですが、一般の方向けに食材を余さず利用したり、地元産や季節の食材を生かしたり、洗剤を使わないで洗ったり、調理方法もガスなど無駄に使ったりしないような、エコな調理法を学びながら、食についても学ぶという取り組みを行っております。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。食品ロスというのが非常に問題になっておりまして、こちらのエコレシピ帳を見ていただきますと、実践ポイントの中の例えばナスは、へたの部分だけ取ればいいんですが、学生は2、3センチ以上落としてしまったりしますね。それからキュウリの天地を落とすときも端を少なく落とせばいいものを、1センチぐらい落とすこともありますので、私も実はエコについては、非常に注目しているところでございます。ありがとうございました。続きましてさまざまな年代の消費者を対象に、流通の立場からの取り組みとして、中野委員、お願いいたします。</p>
中野委員	<p>チェーンストア協会の中野でございます。会社がヨークベニマルで</p>

	<p>ございますので、ヨークベニマルの取り組みについて紹介させていただきます。19 ページの中ほどに書いてありますが、小学生を対象に、5 A DAY 協会と一緒に、スーパーマーケットの体験学習を継続した取組として実施しております。</p> <p>店内で子どもたちが買い物をして、集会スペースでサラダを調理して食べるという内容です。1 日野菜を 5 皿以上食べようということで、特に野菜を中心に、食生活をよくしましょうという教育でございます。市内で希望を取って学校さんから要望があったところに向いて、体験をするというようなことを継続して取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。続きまして農業生産流通という立場からの取り組みについて、平間委員、お願いいたします。</p>
平間委員	<p>仙台農協の平間でございます。よろしく願いいたします。私も 7 月に人事異動がありまして、今回初めての参加ということでございます。資料については 20 ページをお開きください。</p> <p>1 点目でございますが、J A 仙台の食農教育プラン「2013」の実践ということで、実は 2013 っていうのは 3 カ年ということになっていて、2015 年までの取り組みでした。従って 28 年度からは 2016 となっておりますが、内容については大きく変わってはおりません。去年の取り組みと、継続している学校給食の話をしていただきたいと思っております。</p> <p>学校給食については、実は仙台農協が 3 市 3 町域という行政が分かれておりまして、行政単位に学校給食が実施されております。これまでも多賀城市、あるいは七ヶ浜町については学校給食の取り組みを行っていたんですが、27 年度については仙台市経済局、教育局の連携をいただきまして、学校給食連携事業の取り組みをさせていただいたところであります。</p> <p>仙台市内には約 8 万名の生徒さんがいらっしゃいまして、単独調理校と給食センターで給食を提供しています。全校に仙台産の野菜を使っていただくという取組で、野菜については雪菜、ちぢみ雪菜、ネギ、曲りネギの 4 品目にしぼって必ず 1 つはこの食材を使っていただくということで、取り組んだところであります。</p> <p>生徒さんからも喜んでいただいて、学校の周りで採れている野菜が給食の食材に提供されたということで、非常に好評だったと思っておりますし、また J A 仙台のホームページを通じまして、その学校給食の食材となった野菜の生育、例えば播種（はしゅ）から収穫までをブログ形式でアップしまして、それを目でも生徒さんに確認させていただきました。</p>

	<p>続きまして、農業サポーターの養成セミナーです。J A 仙台で取り組んできた大人向け、一般消費者向けのアグリ塾というものがあります。これまで5期生が卒業生を迎えておりまして、約100名の卒業生がおります。</p> <p>この方たちはもともと農業に興味のある方が参画されていたこともありまして、今後、農家のサポーター的な立場になっていただきたいということで、さらに農業の理解を深めていただくような塾を今年度考えております。</p> <p>主に、実習形式での体験を積んでいただいて、最後には管内の農業生産法人等の担い手不足を手伝っていただきたいと考えているところであります。</p> <p>そのほか、学童農園については主にJ A 仙台の青年部という、比較的若い農家の方がつくっている組織がございます。青年部の方が現場、地元である小学校に出向いて、田植えや稲刈り体験等を通じた季節の農業体験を行っているというものであります。</p> <p>最後にJ A 仙台の食農教育プランの豆腐づくりであります。昨年は8校で仙台産の大豆を使った豆腐づくりを行っております。これも継続して実施する予定です。</p> <p>大豆についてですが、J A 仙台管内全体では昨年は1,250ha くらいの作付面積がございました。コボスタの大きさだと1,000個分ぐらいの面積で大豆をつくっております。昨年度は学校給食では野菜のみの使用でしたが、今年は大豆も学校給食に取り入れていきたいと考えております。以上でございます。</p>
高澤会長	宮城県産大豆というと、ミヤギシロメですかね。
平間委員	ミヤギシロメとタンレイです。
高澤会長	タンレイですか。宮城県の大豆は現在全国で第何位なんでしょうか。
平間委員	第2位です。
高澤会長	<p>第2位ですか。宮城県の大豆は結構上位なんですね。ありがとうございます。続きまして私のほうからご報告申し上げます。21ページでございます。昨年度と継続している部分もございますが、食育講座は今年度も実施しております。実は先日、土曜日に開催をいたしまして、非常時の食というテーマで行いました。常備菜という言葉自体がもう段々と忘れられているところがあります。</p> <p>常備菜という言葉をまず知ってもらうということと、味噌づくりをしました。味噌と米と漬物を切らすは嫁の恥という、地方によっては姑が嫁を戒める言葉がありますね。要は戒める言葉ではあっても、米と味噌</p>

	<p>と漬物さえ準備しておけば、いざというときには困らないというのが奥義かと思いますが。学生たちが作った味噌を持ち帰り、各家庭で熟成させる、という取り組みを行っております。</p> <p>それからみやぎ県民大学講座も今年も開講します。実践的な減塩法で健康増進というのは、昨年のテーマですので、訂正をお願いしたいと思います。今年度は体脂肪を減らそうというテーマで実施する予定でございます。どういう食材を使えば、体脂肪が燃えるかということで、実習も含めて実施する予定でございます。</p> <p>3つ目といたしまして、地元野菜を取り入れた弁当の考案の第3弾ということで、今度は春の食材を使ってお花見弁当というテーマで現在取り組んでおります。以上でございます。それでは最後に白川委員のほうからお願いいたします。</p>
白川委員	<p>今年度から参加させていただきました宮城大学食産業学部の白川でございます。実践的な取り組みではありませんが、22ページをご覧ください。書いてある内容が少なく恐縮なんですけど、大学ですので、食育の授業を通して、学生に食育を実践してもらえよう取り組んでおります。</p> <p>私どもの大学では、私が所属している学部は食に関するところなので、食に興味を持っている学生が多いんですが、食と関係ないところの学部の学生ですと、全く食に興味がないと申す学生がおりまして、そういう学生にはやはり食べる力をアップする必要があるということで、この食育の4つの推進の柱の部分の、幅広い食育の授業を行っております。</p> <p>その授業を行った結果としましては、今まで食に興味はなかったけれども、食の重要性がわかったとか、自分自身の食生活を見直す機会になったなどという意見もこれまでありまして、食に対する意識を高められるようにと、授業を行っております。</p> <p>またここには書いておりませんが、最近高校からの食育の出前授業の要望が非常に多くなっておりまして、高校生に対しても、女子高生ですとダイエットをする学生も多いので、バランスの取れた食事の重要性や、食に興味を持ってもらえるように、授業を行わせていただいております。</p> <p>また市民に向けては食育の講座を行っておりまして、中年期から高齢期の方々に向けまして、生活習慣病の予防、最近はロコモティブシンドロームの予防のための食事や運動についての講話などを行っております。</p> <p>また年に一度、幼稚園・保育所・小中高校の教員の方を対象とした教員免許状更新講習の中に食育についての講座を設けております。教育現場で実践できるような、取り組み事例の紹介や、先生方同士で、それぞ</p>

	<p>れの現場で見られる食に関する問題点を共有しながら、その改善に向けての討論などを行っていただくようなことを行っております。今後もこういう取り組みを続けていきたいと思っております。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。うちの大学でも文系の学生たちは食に興味がなく、買ってあげればいいでしょうという状況なものですから、ぜひ食の分野以外の学生たちへの取り組み、どうぞよろしく願いいたしたいと思えます。続きまして仙台市事業計画についてご紹介お願いいたします。まず子供未来局からお願いいたします。</p>
福田委員	<p>子供未来局の福田と申します。どうぞよろしく願いいたします。資料の24ページをご覧ください。24ページの真ん中のあたりに、保育所・幼稚園児の保護者、地域子育て家庭の保護者に対しての情報発信ということで、3番に親子調理活動（拡充）というのがございます。</p> <p>この活動今年度で3年目になりますけれども、食事づくりの楽しさや、保育所の食事への関心を高めることを目的に、各保育所で、保育所の参観日などを利用して、親子調理活動を行っております。今年度は、これまでの事例をまとめた事例集を作成し、保育所間で相互に活用しながら取り組みを進めていきたいと考えております。</p> <p>続いて25ページの下段になります。こちらは例年行っております妊産婦や、乳幼児の食事について、各種健診のタイミングを捉えた指導・啓発になります。今年度も引き続き行いたいと思っております。</p> <p>加えまして一番下の5番のところ、訪問相談とありますが、一部になりますけれども、保育所の地域子育て支援事業の中で行っております。食事について悩んでいる保護者の方からのご相談というのもありますので、きめ細かな相談指導を、今年度も行っていきたいと思っております。</p> <p>次に26ページです。上から2つ目に、保育所における食育の充実とあります。各保育所において食育計画・食育活動計画を作成し、様々な活動を行っております。子どもたちの年齢に応じた食事の取り方、食事のマナー、食事の前後の手洗いといったことも含めた活動をおこなっておりますので、引き続きこの部分についても取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>また、同じページの一番下の、「パパ's クッキング」ですが、これはお父さんの育児参加のための料理教室を年2回、ガスサロンを会場に、のびすく仙台と共催で開催しております。</p> <p>今年度も昨日実施されて8組の方にご参加いただきました。スペースの関係で人数は少ないのですが、募集をかけますと、割と早めに埋まってしまうという状況になっております。引き続き今年度も行う予定です。</p>

	<p>以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。離乳食教室、重要だと思います。若い世代のお母さん方の中には離乳食の作り方を知らない方も結構いるようでございますので、ぜひこういった教室を数多く実施していただけるとありがたいと思います。続きまして経済局、お願いいたします。</p>
石川委員（佐藤農林部長代理出席）	<p>農林部の佐藤でございます。経済局では農産物の生産振興、それから地産地消の推進に努めておりまして、また中央卸売市場も所管してございます。農産物の利用促進、それから生産流通・消費の相互理解を深めるための施策を実施しておりますが、具体的な食育の事業といたしましては、推進の柱の3、地産地消を進めよう、が大きなウェイトを占めております。それでは資料の28ページをご覧ください。</p> <p>子どもたちの身近な場で地産地消を実践します。これは先ほどJ A仙台の平間部長さんのほうからお話をいただきましたが、学校給食推進事業でございます。これは教育局と連携した取り組みで、仙台産農産物を給食に取り入れるというものでございまして、引き続き仙台産の農産物の認知向上と消費拡大を図ってまいりたいと思っております。</p> <p>また③のB-3でございますが、先ほども学童農園のお話がありましたが、市民や子どもたちが生産者と触れ合い、農業を体験する機会として、今私ども幼稚園、小学校中学校を含めまして、約80校の学校にご利用いただいております。今後も広げていきたいと思っております。</p> <p>内容としては、お米をつくるのは大変でございまして、今機械化が進んでおりますので、機械で田植え、刈り取り、脱穀までしてしまい、なかなかその場でお米になるまでの過程を見られないというところではございますが、それ以外にも野菜、サツマイモですとか、さまざまな体験ができますので、ぜひお申し込みいただきたいと思っております。</p> <p>また28ページに戻っていただきまして、地場産の食材や地産地消について知る機会をつくるということで、3のNHKのテレビ番組『ひるはび』で、中央卸売市場から、「旬の金曜日～市場中継～」という形で、旬の食材の紹介をしております。また、4の食品流通の仕組みと市場の役割について、理解を深めるための市場見学会も合わせて実施しております。今年も継続して実施する予定でおります。</p> <p>NHKの番組については大体年間42～43回程度の放送となっております。お昼でございますが、ぜひご覧いただければと思います。</p> <p>それから③-B-1、仙台産の農産物表示マーク、愛称を「ここでちゃん」といいますが、その普及を通じた地産地消のPR、生産現場の見学や栽培体験を伴う地産地消推進サポーター事業なども実施してございます。</p>

	<p>合わせて生産者が直売することで消費者と交流する機会をつくる旬の香り市や、エコファーマーフェアなども開催し、地場産の食材や地産地消に関して、市民の方に広く知っていただく機会づくりに努めておるところでございます。経済局では今後も引き続き、食育の推進に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。現在の宮城県の自給率はどれくらいですか。</p>
石川委員（佐藤農林部長代理出席）	<p>大体6%から7%でございます。仙台産、仙台市内に限っても、お米で大体20%くらいです。約108万市民の方いらっしゃいますが、お米一生懸命つくっていただいておりますが、それでも仙台市内のお米だけにすれば約20%。その他の食材まで含めると、全体では6%から7%くらいになります。</p>
高澤会長	<p>仙台市ですね。</p>
石川委員（佐藤農林部長代理出席）	<p>仙台市でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。それでは教育局、お願いいたします。</p>
大越委員（清水教育局総務企画部参事兼健康教育課長代理出席）	<p>教育局の清水と申します。よろしくお願いたします。私のほうからは教育局の事業のご紹介でございますが、30ページからとなります。教育局の場合は児童生徒とその保護者を対象とした事業が中心となっておりますが、30ページの一番上に学校給食フェアという事業名がございます。</p> <p>これは先ほど熊谷校長先生のほうからもご紹介いただきましたことと重複いたしますが、市役所の食堂におきまして、実際に単独調理校で提供されているメニューを食堂で提供する試みでございます。今年度は、年が明けた来年の1月後半に5日間、60食程度の提供数になろうかと思っておりますが、実際にそれを市民の皆さんや職員で食してもらおうという取り組みを行っております。</p> <p>中段部分の「仙台市健やかな体の育成プラン」の取り組みでございます。このプランでございますが、目指すべき10年後の児童生徒の姿を見据えまして、平成24年度から取り組みを開始したもので、当初5年間で取り組むべき学校体育、学校保健、食育の3分野につきまして、指標を掲げ、総合的かつ体系的に進めてまいったところでございます。</p> <p>また健康教育推進校の指定をしている6つの学校におきましては、3年間を研究期間といたしまして、効果的な指導方法等の工夫や改善、並びに家庭や地域との連携の仕方などにつきまして、各学校の教育目標や児童生徒の実態等に沿った指導に取り組んでいるところでございます。</p>

	<p>今年度、そのうち4校が研究期間の満了を迎えますが、その実践例や成果、課題などを事例集としてまとめて、他校での健康教育における参考資料とするため、各学校に配布する予定としております。この健やかな体の育成プランにつきましては、これまでの5年間の取り組み内容と指標の到達度を検証し、このたび検討委員会を設置いたしまして、本年度中に29年度以降の次期計画に向けた改定ということで、ただいま作業を進めているところでございます。</p> <p>続きまして、①-B-9の1でございます。31ページの中段部分になりますが、親子食育講座について、ご説明申し上げます。PTAや社会学級などの協力を得まして、実施している講座でございますが、例年、地産地消や朝食づくりをテーマとした調理実習、講話など各団体において、さまざまな内容を取り上げておまして、参加者からは家庭で食について考えるよい機会となったという声が多く寄せられております。今年度は現時点で47校での実施予定となっております。</p> <p>以下、32ページまで事業を掲載してございますが、児童生徒の食育を学校教育の場面のみで実施することには、ある程度限界がございますので、先ほどの親子食育講座のほかにも、調理講習会といったイベント、あるいは給食だよりなど、紙面も活用しながら、より一層、家庭への啓発に取り組み、食育を進めてまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。続きまして、健康福祉局お願いいたします。</p>
佐々木委員	<p>健康福祉局から3点ご報告したいと思います。資料3の34ページをご覧ください。34ページの下から2つ目の欄でございしますが、大学との連携による若い世代への食育推進事業ということで、市内の管理栄養士養成課程のある大学の学生をメンバーとした食育プロジェクトを立ち上げ活動しております。これまでも食への関心が薄い若い世代に対し、同じ世代から同じ世代への働きかけということで、取り組んでおりますが、例えば栄養バランスの取れた食事とか、朝食を取ることの大事さということを発信してまいりました。</p> <p>昨年度、今まで委員の皆様方からもお話がありました減塩を、プロジェクトのテーマとして取り組みを進めてきたところでございます。若いころから塩分の取り過ぎに注意するよう塩エコをテーマに取り組みを進めてまいりました。</p> <p>今年度は昨年度作成しました塩エコのロゴマークを活用して、若い世代のほか、子育て世代まで幅を広げまして、啓発活動を実施してまいりたいと考えてございます。</p>

	<p>2つ目はちょっと飛びますが、45 ページをご覧ください。45 ページの下から3つ目の、項目としては7番目のものですが、既に終了した事業ではございますが、6月に食肉まつりというイベントが市民広場で開催されました。この食肉まつりでは食の安全サポーターを経験したアドバイザーの方と一緒に、来場した方々に正しい手洗いの仕方、これは手洗いチェッカーという道具を使いまして、啓発を行いました。</p> <p>さらにチラシ等によりまして、食品の安全、あるいは衛生に関する情報の普及啓発を行ったところでございます。毎年、食肉まつり、食肉市場と連携した活動をしておりまして、このような取り組みを進めております。</p> <p>最後でございますが、本日お配りしておりますこちらの仙台市消費生活基本計画、こちらに関連してでございます。担当としましては同じ市役所の市民局でございますが、こちらをご紹介したいと思います。本年3月に計画期間を平成28年度から32年度という第3期計画を策定してございます。この資料の27ページをご覧ください。</p> <p>さまざまな施策、この資料に掲げてございますけれども、施策の方向3ということで、持続可能な社会づくりのためのライフスタイルの推進、この中の主な取り組み事項(5)食育の推進という項目がございます。消費生活基本計画におきましても、食育の推進ということを位置づけまして、消費者行政の視点から地産地消、あるいは健康な食生活の推進といった取り組みを進めることとしております。私からは以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。それぞれの分野からのご報告でございました。ここで市民公募委員の皆様から平成27年度の取り組み状況、平成28年度食育推進事業計画を聞かれまして、ご自分たちの取り組みの紹介を含めて、ご意見をいただければと思います。市民公募の亀山委員からお願いいたします。</p>
亀山委員	<p>市民公募で参加しています亀山と申します。よろしく申し上げます。事前に資料を送っていただきまして、熟読させていただきました。やはり食育がもう法律で制定されているだけあって、こんなに充実しているということに驚きました。</p> <p>学校対象のものだと興味のあるなしに関わらず、お子さんたちが皆さん参加すると思いますが、イベントになってしまうと、アンテナを張っている人しか参加できないと思ったときに、資料3の39ページに、タクシーや理容美容組合で、食育関係の掲示物があるという記載があって、皆さん髪は切りに行くので、そういったところには出向くだろうし、タ</p>

	<p>クシーなんかに乗っている方だと、もしかしたらメタボの方とかも結構多いのかなと思ったので、不特定多数の方に食育についてお知らせするという意味では、すごくいい試みだと思いました。</p> <p>また、先ほどから学生は食に興味のない方が多いというお話がありましたが、私もこれだけ充実した内容がきちんと伝わるためにはどうすればいいかを考えたときに、自分事として受け止めることが効果的かと思うので、ニーズを掘り起こして、そこに訴えかける方法がいいかと思いました。</p> <p>高澤先生がまさに食というのはすべてのベースだとおっしゃいましたが、私もそう思っております。様々な問題の解決の糸口が食にある、と考えたときに、特にお子さんは、悩みが実は食で解決できるというメッセージがあると、食に対してただおいしかったというだけでなく、もっと意欲的に取り組み意識が高まるのではないかと思います。</p> <p>単にいいことはいい、正しいことは正しい、というだけだと勉強になってしまいますが、自分にとって食がとても必要なもので夢をかなえるために、食があるという接点があったら、もしかしたら食育もただ受けただけではなくて、室にも変わっていくのかな、と思いました。</p> <p>一昨日の河北新聞に食育にからめて便育ということで、いかに排泄するか教育がなっていないという記事がありました。食べるということとはただ取り込むだけではなく、いかに消化して、代謝して、自分の栄養にして、自分をつくっていくかという、排泄までが1つのサイクルだと思いますので、食育の中に便育が入っているし、既にもう仙台市の方もそれはやっていますって怒られそうなんですけどニーズという意味で、排泄にからめて、気持ちよく生活するための1つとして食があるという、逆説的な持って行き方もあるのかなと、一昨日の新聞を見て思っただけでコピーをとって見たところでした。ありがとうございました。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。入り口があれば出口もあるわけですので、食物繊維の摂取量が少ないということもよくいわれていますので、食物繊維の豊富な豆類とか海藻とか野菜類をきちんと摂るということも大事かと思います。続きまして齋藤委員、いかがでしょうか。</p>
齋藤委員	<p>今年から公募委員で入りました齋藤です。どうぞよろしくお願いいたします。本日、関係諸団体の皆様方の取り組みをお聞きして、私は娘が2人おりますが、幼稚園や小学校での、給食や栽培活動などを思い出すと、2人の娘が帰って来たときに、そういう教育を受けた日は、とっても喜んで帰ってきておりました。今娘たちは大学生ですが、まさに先生方おっしゃっているような状況です。</p>

	<p>充実した取り組みが大学でもなされているということで、本当に改めて、私自身も本当によかったな、素晴らしいなと思いますし、ほかにも一般市民向けの講座がたくさんあるというのを、ここで初めて知ったという状況なので、機会をとらえて、私も出てみたいと思っております。</p> <p>市民の立場として、このように皆様方が手を携えて、活動していたということに、改めてお礼申し上げたいという思いでいっぱいです。</p> <p>これからの計画につきましても、この4つの柱をもとに、若い世代を中心に、いろんな方に伝えていこうという思いが伝わってまいりました。ただ、市民の側としてはアンテナを高く張っていないと、参加できないかなという思いがありますので、ぜひ発信の面でも今までもなされているとは思いますが、一人一人に届くような発信の強化をお願いできたらと思っております。</p> <p>私は子どもを育てた経験しかございませんので、活動というものは特別してはおりませんが、この食べる力をみんなでアップ！みんなでおいしく楽しく食べようという、基本目標は言葉がわかりやすく、人に伝わるものがあると思います。これを皆さんで共有されて、活動されているということであれば、例えば活動の場、教育や医療の現場、講座にこの目標を幟にしたり掲示することにより皆さんが同じ目線で同じものを基本にして、活動していらっしゃるというのが、分かりやすいかと思えます。</p> <p>食育を一人一人に浸透させるのであれば、買うとか食べるとか、その現場に行って、一人一人が食べるところで力を発揮していかないと、本当に今までの学んだことがその場で止まってしまって、家庭に住んでいる人、子どもや、お年寄りなど、みんなのところに浸透していかないのではないかと思います。この基本目標がとっても大事だと思いますので、皆さんの活動の場で、うまく共有される工夫がなされていけば、市民もそれから食育推進会議も、みんなで手を携えて、1つの目標に向かって進んでいくということができるのではないかと思います。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。ただいま皆様からお話をいただきましたが、事業計画につきまして、ご意見、ご質問ございますでしょうか。ほかの委員の方々、いかがでしょうか。私のほうからお伺いしたいことがございます。</p> <p>みやぎ生協の渡辺委員にお伺いします。あいブランド商品というのはどのようなものでございますか。商品開発か何かされていらっしゃるんですか。</p>

渡辺委員	あいコープのプライベートブランドです。地場産の食材を使って、それを加工した商品を開発しているということです。
高澤会長	プライベートブランド、わかりました。それから環境とくらし・ネットワークの菅原委員にちょっとお伺いします。若い世代対象とした企画をされていますが、どのように若い世代の方々を募っていらっしゃるのか、お伺いしたいと思います。
菅原委員	<p>広報についてはフェイスブックのページをメインに、情報発信しています。講座を開催するときに、イベントページをつくります。例えば6月に鳴子で温泉の会があったんですが、そのときも1カ月前ぐらいから、フェイスブックで情報発信を始めました。あとは私どもの団体のメールマガジンや、情報誌にも載せて、情報発信をしています。</p> <p>やはりフェイスブックなどのインターネットは若い世代は使っている方が結構多いので、そこで伝わっていくものもありますし、あとは参加者からの推薦で、ほかの方を呼んでいただいて、そこでどんどんつながっていくということもあります。</p> <p>ただ、若い世代を対象にはしていますが、やはり年齢がまちまちであるのは、課題にはなっております。フェイスブックで情報発信しているというところは、若い世代を対象にしているという点では大きいかと思えます。</p>
高澤会長	結構それで集まってきますか。
菅原委員	<p>若い世代に限定しなければ、集まります。大体毎回定員は埋まっていますし、もう1回開催できるくらい的人数が集まれば、追加開催などもしています。2015年から2016年のこの前まで、ボリューム4ということで、開催しておりましたが、その回ですと、10回の予定が追加開催分も含めて、合計14回開催して、延べ270名くらいの参加者がありました。。</p> <p>飲食店の会場の席数にもよりますが、毎回15から30名くらいの方に参加していただいております。</p>
高澤会長	ありがとうございました。時間もかなり押してございます。それでは続きまして、議事の5に移りたいと思います。仙台市食育推進計画第2期中間評価に向けて、でございますが、はじめに事務局からご説明をお願いいたします。
健康政策課長	それでは資料4をご覧ください。最初の資料の4-1ですが、こちらは後期計画策定にかかるスケジュールでございます。平成29年度に具体的な計画策定作業に入るわけでございますが、今年度は評価の年となっております。1つ大きなものとしましては、市民の意識調査を実施する予定です。こちらは推進計画に指標と目標値も掲げてございますので、こちら

	<p>のデータを把握するために、市民 6,000 人を対象としました調査を郵送で行う予定でございます。</p> <p>そのほか、関係団体の皆様がお持ちのデータなどを再度集めたり、分析をしたりということで、今年度は評価を行っていく予定でございます。来年度はそのデータ等も参考にしまして、後期計画の策定につきまして、この会議でも皆様からご審議をいただく予定にしております。</p> <p>次におめくりいただきまして、資料 4-2 でございます。こちら仙台市の第 2 期の計画と、国の第 3 次食育基本計画を並べて記載してございますが、3 次計画のほうはもう今年からスタートしておりまして、こちらの重点課題のほうに、新しく加えられたものがございます。</p> <p>②の多様な暮らしに対応した食育の推進という項目と、④食の循環や環境を意識した食育の推進。⑤の食文化の継承に向けた食育の推進ということが新たに加わっておりますので、国のこの 3 次計画を踏まえまして、私どもの後期計画のほうも反映をさせていければと考えているところでございます。</p> <p>またページをおめくりいただきまして、資料 4-3 でございますが、こちらが仙台市の現在の評価項目の一覧と、右側には 3 次食育推進基本計画の目標を記載しております。3 次食育推進基本計画では、新しい課題が加わったということで、今の仙台市にはない新しい項目がございます。</p> <p>こちらの網かけになっている部分が、仙台市にはない項目でございまして、こちらについては今年行います市民の健康意識調査に、新たに質問項目を加えるなどをして、本市の現況値についても把握していきたいと考えているところでございます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から仙台市食育推進計画と国の第 3 次食育推進基本計画の重要課題、それから指標についてご説明がありましたけれども、ご質問ご意見などはございませんでしょうか。</p> <p>そのほか、各委員が日ごろの取り組みを通じて、感じていることなどもございましたらば、お願いします。特にはございませんでしょうか。それでは本日の議題は以上でございます。最後にその他の項目でございまして、委員の皆様、あるいは事務局から何かございませんか。お願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>では事務局からでございます。1 つは今日の資料にもさせていただきましたが、毎年食育の活動事例集を取りまとめさせていただいております。こちら 28 年度の取り組みも同様に、事例集を作成したいと考えております。</p> <p>実際には年度末ごろに、皆様に依頼を差し上げることにはなりますが、</p>

	<p>既に皆様、今年の活動が始まっているところでございますので、この事例集への報告なども意識していただき、写真などを撮っていただきながら、それぞれの取り組みを進めていただき、ぜひこの事例集の掲載にご協力いただきたいと思います。</p> <p>また、環境局からこちらの緑のチラシと、先ほど話題にもなりましたが、エコレシピ帳の情報提供がございました。環境局では今年ワケアップ仙台と銘打ちまして、いろんな形でのごみの分別などを、啓発をしているところです。</p> <p>こちらの緑のチラシのほうの、下のほうにあります、生ごみ減量のポイントとして、3つの「きる」ということで、食材のことも書いてございます。</p> <p>国の3次計画にも食の循環、環境を意識した食育の推進が掲げられております。環境行政とのコラボなども今後想定されるだろうということで、ぜひ皆さんと連携をする機会があればという意味合いも含めての情報提供がございましたので、ご紹介したいと思います。</p> <p>最後に、この会議の次回の日程についてでございます。今年度、第2回目の会議の予定は年が明けまして、2月ごろと考えておりますので、具体的にはまたご連絡させていただきますが、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。以上で議事を終了させていただきますけれども、それぞれの分野で活動され、その報告書を作成されるかと思ひます。この会議は年に2回しかございません。次回は来年の2月になろうかと思ひますが、そのときには活動の報告という形になります。</p> <p>単なるイベントに終わらせるだけでなく、この活動を通して何を伝えることができたか、何を受け止めていただけたことができたかということも含めて、ご報告いただけるといいかと思ひます。</p> <p>それから日本は食料自給率全体で約4割、6割は外国に食料を依存しているという状況にあります。ですから今の日本の食は非常に豊富な感覚ではあります、砂上の楼閣であると思ひます。</p> <p>今のような豊かな食生活状況はやがて崩れるという状況にありますから、先ほどの食品ロスの問題ですとか、それから天地の恵みをいただいているという、食への感謝ということも含めて、活動のうちに入れていただけるといいかと思ひます。長くなりました。以上でございます。皆様からさまざまなご報告いただきましてありがとうございました。では事務局に進行を引き継ぎたいと思ひます。</p>

進行	では委員の皆様長い時間、ご議論ありがとうございました。以上をもちまして、平成 28 年度第 1 回仙台市食育推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。
	—了—

平成 年 月 日

署名委員